

私の原点

大学の4年間I・Cプレイホームというサークルで活動しました。I・Cプレイホームは心や身体や知能にハンディを持つ人々と毎週土曜日、様々な活動を行うサークルです。I・Cプレイホームの活動方針には、「専門家ではありませんので、参加者の自発的な動きや決定を大切に」「参加者・ボランティアなどの立場を超え、同じ人間としての出会いを大切に」とあります（一部抜粋）。専門家ではないので、何かを教えようと考えことはありません。共に活動し、共に感じたことを伝え合うというシンプルなものだったように思います。現在は教師という立場ですので、児童・生徒の特性に応じて、指導を行う立場にあります。しかし、何かを教えようという立場を一度離れ、人としてまごど付き合ってみる、このことが子どもたちとの関係づくりにとても役立っていると感じています。また、夏の4泊5日のキャンプ、秋のいも



煮会、冬のクリスマス会等様々な企画を考えました。企画を考える中で熱い議論が交わされ、「スイカ割りのスイカを一人一つ割るにはどうしたらよいか!」と遅くまで話し合い、張り子で作ったスイカの模型を人数分準備することもありました。時には意見がぶつかることもありましたが、必ず企画が終わった後にはメンバーも学生も笑い合っていたように思います。今日、学校現場では、チームで協働する大切さが叫ばれています。人と深くかわり合い、チームで共に考え、悩み、笑い合うという素晴らしさを学ぶことができた、この4年間はこれからも私の原点となるでしょう。



福島大学附属特別支援学校 教諭

星 視文

Tomofumi Hoshi

障害児教育教員養成課程 盲学校教育専攻
平成15年3月 卒業

